

【施設見学会】

国内最大の電気出力

関西電力株式会社 大飯発電所

10月25日（土）、関西原子力懇談会の協力を得て首記の大飯発電所見学会に当協会へ10名参加枠の割愛を受けた。当日は天皇・皇后の行幸を得て開催された「なみはや国体」の開会式の当日であり、大阪を抜け出すまでは、道路警備での渋滞に悩まされたが、その後は順調に舞鶴道を北上し、サイトに到着した。現場は、若狭本郷駅から約10kmの大島半島の先端に位置し、途中の海岸沿いの道路からは、夏は海水浴、春秋はチヌ釣りに興じる大勢の観光客で賑わっているのが眺められる。

大飯発電所は、敷地面積 188万㎡（甲子園球場の約50倍）に4基の原子炉が設置されている。この発電所は関西電力網の中でも最大出力を誇る発電所であり、1～4号機あわせて 471万kWとなっている。この電気出力は1ヶ所の発電所としては国内最高のものである。この量は、大阪近辺では堺臨海工業地帯に煙突の林立する堺港発電所8基

の総出力 200万kWと比較しても約2倍半であり、その大きさが想像できよう。

この発電所の1・2号機は格納容器の周囲に設けられたバスケットに1,200tonのシャーベット状の水を蓄え、事故時に発生する蒸気を急冷するシステムに、3・4号機は格納容器がプレストレスコンクリート製で、事故時の大きな圧力に耐える構造になっているのが特徴である。

発電された電力は 500kvに昇圧されて、山越えをして京阪神地区に送電される。また、夜間に発電された電力は大河内、喜撰山、新吉野などの揚水式水力発電所に蓄えられ、昼間のピーク電力を補っている。

また、発電所の近くにはPR館の EL PARK OHIがあり、原子炉建屋を1/3に縮尺した模型が設置されており、一般の方が入域できない管理区域内の様子を見学することができる。

